

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 25 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>	
1.	事業名：地域住民と歯科医療従事者とが共に考える新しい学校作り
2.	申請者名： 申請団体名：香川県歯科医師会（会長 豊嶋健治） 担当者氏名：土井孝信
3.	実施組織： 主催：香川県歯科医師会、香川県歯科医師会立香川県歯科医療専門学校
4.	事業の概要： 近年、歯科医療を支える若手の歯科衛生士・技工士が減少している状況に、危機感を抱く歯科医師会会員が多く認められる。そこで、学校施設を県民に開放し、学生教育の一端から実際の臨床現場での応用に至るまで、ここで学ぶ学生が社会にどのように貢献しうるのか、県民に分かりやすく紹介する。これにより県民に、歯の健康および学校への関心・理解が深まることが考えられ、県民の歯の健康の増進に資するとともに、会立学校への入学希望者の増加が期待できる。
5.	事業の内容：「8020 県民公開講座」 対象：一般県民 および会立学校教職員、学生 1 回目：西村好美（歯科技工士・歯科衛生士ダブルライセンス）「歯科補綴物はどこまで体の一部になりうるか？～知らなかった歯科技工の世界、その不思議に迫る～」 2 回目：鈴木宏治（地域福祉プロモーター）「相手の気持ちで考える～みんな違ってそれでいい～」 3 回目：鈴木信行（患者スピーカーバンク理事長）「プロ患者が語る！『賢い患者』になる秘策とは！～医療者との心地よい付き合い方～」 場所：香川県歯科医療専門学校（高松市錦町 2 丁目 8 番 37 号） 内容：本校は、学生教育を通じて、県民の口腔の機能維持や改善を図ることで、全身の健康あるいは食を含めた質の高い生活を営むことを支援しているが、必ずしもそのことが一般県民に広く知られているわけではない。昨年度、歯科専展と題して、学生の学校教育におけるふだんの取り組みを発表、展示をしたり、講座を開催、学生と県民が直接対話できる場を設け、県民とともに本校の存在意義やニーズを考えた。今年度は、歯科衛生士、歯科技工士のやりがいから、福祉、人権、患者が求める医療者像まで、幅広く県民と話題を共有する。 実施方法：広く県民に本事業を周知、参加者を募集。
6.	実施後の評価： 今年度の課題は、一般県民参加者数の増加と、歯科技工士、歯科衛生士業務の認知度向上、学生と一般県民が同じテーマについて考え意見を交換する、の 3 点であった。一般県民参加者については、1 年目 73 名、2 年目 49 名、今年度 114 名という結果だった。各回とも定員が 50 名だったので、定員を満たすことはできなかったが、回数を重ねることで、県民への PR にはつながったように考えている。今回の講演では講師にあらかじめ、心と身体の健康をテーマとして、一般県民と学生と一緒に考えてもらえるよう、また、お互いの知識や考えがわかるよう工夫して頂くことをお願いしていたが、各講師ともそのところを良く理解して講演を進めていただいたおかげで、会場が一体となって学校や健康への理解を深めることができたように思う。